

Trias 企業メモ 2009-11-10



(3377 東証 2 部) 株式会社アイケイコーポレーション

2009 年 8 月期 決算説明会サマリ

2009 年 10 月 15 日、株式会社アイケイコーポレーション(以下、当社)の 2009 年 8 月期 決算説明会が開催されましたので、概要をご案内いたします。

説明会出席者:

取締役会長 石川 秋彦 氏

代表取締役社長 加藤 義博 氏

取締役副社長 大谷 真樹 氏

取締役 山縣 俊 氏

総合管理本部長 澤 篤史 氏

経理財務グループ マネージャー 竹内 和也 氏

経営企画グループ マネージャー 西元 裕肇 氏

加藤社長による決算説明の概要は以下の通りです:

**【2009 年 8 月期決算概要】**

景気の低迷が続く中、2009 年 8 月期は新規事業である小売販売、駐車場(パーク王)については概ね予想通りの進捗となったが、主軸の買取販売が予想を下回る結果となり、当期純利益は前年同期比 70.4%減の 251 百万円となった。

**<買取販売>**

当社の主要販売先である中古 2 輪車オークション市場は、昨年 10 月以降世界的な不況・円高により、輸出業者を中心に買い控えが続いており、単価も下落した。今年 1 月以降は、例年の季節トレンドを踏襲しながら推移していたが、季節性に沿った価格上昇を見込んでいた 8 月は、落札単価が低下した。この間、当社では仕入台数の増加を図るための施策を実施したため、仕入れ価格が予想を上回った。その結果、当社第 4 四半期(4Q: 6~8 月)の平均粗利予想額 82,034 円に対し、実績は 71,241 円となった。また、販売台数は 4Q 予想 46,423 台に対し、実績は 43,654 台にとどまった。これは、エリアマーケティング分析と媒体分析による広告の最適化を図ることで、CPR※は改善したものの、効果の発現が想定よりも遅れたためである。買取販売の 4Q 売上総利益の未達要因は、約 70%が平均粗利額の低下、約 30%が販売台数の未達によるものである。

バイク王店舗は今期 15 店舗を新規出店するとともに、効率化施策の一環により 6 店舗を閉鎖し、2009 年 8 月末で 100 店舗を達成した。

※ CPR (Cost Per Response) 広告効果の経費効率を示す指標のひとつ。広告費に対して、何件の問い合わせがあったかという指標。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

### <小売販売>

小売販売については、「バイク王ダイレクト SHOP」へのブランド統合による効果が着実に浸透した結果、販売台数が増加し、販売台数、売上単価、粗利額ともに予想通り推移した。ウェブ通信販売においては、2008年12月に旧テクノスポーツのWEBサイトをバイク王ダイレクトSHOPのWEBサイトとしてリニューアルオープンし、高排気量の車両を中心に売上が順調に拡大している。

### <駐車場・パーク王>

駐車場・パーク王については採算性を重視しながら事業地開発を行っており、1車室当たり粗利額も6四半期連続で黒字を確保し、収益構造を着実に改善している。

【表1】2009年8月期連結決算概要

(百万円)	FY8/08 金額	FY8/09 金額	対前年同期比 増減額 増減率	
買取販売				
売上高	23,737	22,101	(1,636)	-6.9%
売上総利益	12,450	11,873	(576)	-4.6%
営業利益	2,255	833	(1,421)	-63.0%
経常利益	2,274	839	(1,435)	-63.1%
小売販売				
売上高	1,431	2,305	874	61.1%
売上総利益	420	710	289	68.7%
営業利益	(316)	(165)	150	-47.5%
経常利益	(299)	(133)	166	-55.5%
駐車場(パーク王)				
売上高	216	394	178	82.5%
売上総利益	(1)	49	50	-
営業利益	(80)	(24)	55	-
経常利益	(66)	(5)	60	-
連結				
売上高	24,588	23,502	(1,086)	-4.4%
売上総利益	12,871	12,632	(239)	-1.9%
営業利益	1,864	646	(1,217)	-65.3%
経常利益	1,904	671	(1,232)	-64.7%
当期純利益	847	251	(596)	-70.4%

### 【2010年8月期業績予想】

中古2輪車オークション市場の相場には不透明感が残ることを踏まえ、相場の回復は織り込まず、2010年8月期の業績予想を策定した(業績予想についてはP4「業績の推移」をご参照ください)。相場は不透明感が残るものの、年度ベースではオークション取扱い数量は堅調な成長をしているため、今期CPRが改善されたことを踏まえて、効率的に広告出稿量を増加させて買取台数の増加につなげていきたいと考えている。また、1店舗あたりの取扱い台数を増加させて、生産性を向上させる。更に、物流拠点を新設し、整備体制を強化することで質の確保を図る。グループシナジーの追求として、買取・小売併設店を今期2店舗出店する予定だ。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

## 【質疑応答】

- Q1. 昨今のデフレ傾向を踏まえると、オークション市場について、もう一段の悪化リスクはあると思われる。貴社の収益もオークション動向に左右されると見てよいか？
- A1. 当社のビジネスモデル上、買取したバイクの販売先は9割がオークション市場となっている。小売販売なども手がけてはいるが、まだ規模が小さく、オークション市場に収益が左右されるのは否めない。オークション会社や小売販売店にヒアリングをかけたところ、今以上に悪化するとは見ていないようだ。当社としては、広告量を増加させ、販売台数の増加につなげることで売上減少をカバーしていきたい。
- Q2. 当面悪い状況が続くと見られる中で、積極策を打ち出すのではなく、守りの姿勢で地道にやっていくという選択肢もあるのではないかと？
- A2. リユース業は不景気の中で取扱量が増加する傾向にあり、実際お客様からのお問い合わせ件数も増加してきている。この状況に鑑み、今期も広告出稿量については積極的に増加させる予定だ。ただし、小売販売に関しては現状積極的には展開せず、時期を見て今後の展開を検討していきたい。

(以上)

## 【ご参考】

(3377) 株式会社アイケイコーポレーション

## 連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2009.8月	152,856
うち自己株式数(株)	2009.8月	-
時価総額(百万円)	2009.11.9	4,716
一株当純資産(円)	2009.8月	30,460.54
ROE(%)	2009.8月	5.5
ROA(%)	2009.8月	3.9
PER(倍)	2010.8月予	8.8
PCFR(倍)	2009.8月	7.7
PBR(倍)	2009.8月	1.0
株価(円)	2009.11.9	30,850

連結主要データ		
総資産(百万円)	2009.8月	6,350
自己資本(百万円)	2009.8月	4,656
有利子負債(百万円)	2009.8月	238
自己資本比率(%)	2009.8月	73.3
有利子負債比率(%)	2009.8月	5.1
フリーキャッシュフロー(百万円)	2009.8月	(81)

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー(CF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2006年8月期	16,709	1,182	1,265	616	4182.00	600.00
2007年8月期	20,379	1,574	1,604	740	4859.27	300.00
2008年8月期	24,588	1,864	1,904	847	5555.13	800.00
2009年8月期	23,502	646	671	251	1643.75	1,200.00
予2010年8月期中間	11,081	(110)	(101)	(108)	(711.65)	600.00
予2010年8月期	24,587	1,016	1,043	536	3508.66	1,200.00

注 2010年8月期予想は、2009年10月14日発表の会社予想

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。